

発災前の確実な避難による効果事例集 【令和3年8月更新】

○声かけによる避難（7事例）

近所住民、自主防災組織や家族からの声かけが避難のきっかけになったという事例が多く報告されており、避難する際には積極的に周りの方々にも声かけを実施することが大切です。

事例：①新潟県糸魚川市、④岐阜県下呂市、⑨佐賀県鹿島市、⑩熊本県小国町、⑬宮城県丸森町、⑯京都府綾部市、⑱愛媛県松山市

○円滑な避難（10事例）

豪雨前に円滑に避難するためには、日頃からの避難訓練、土砂災害や避難行動に関する情報（土砂災害警戒情報・避難指示等）の収集、土砂災害の前兆現象への理解や、関係者どうしの円滑な情報伝達が大切です。

事例：②長野県飯山市、⑤岐阜県郡上市、⑥滋賀県長浜市、⑦山口県和木町、⑧徳島県上勝町、⑪大分県日田市、⑫鹿児島県垂水市、⑭静岡県小山町、⑲高知県大月町、⑳富山県魚津市

○立ち退き避難する時間的余裕がない場合の避難（4事例）

避難指示等が発令された際に立ち退き避難を行う時間的余裕が無い場合は、堅牢な建物の高層階へ移動したり、自宅の中でも斜面と反対側の2階以上の部屋等へ移動することも有効な場合もあります。

事例：③岐阜県下呂市萩原町、⑮岡山県新見町、⑰山口県岩国市、⑳秋田県仙北市

共助により難を逃れた事例(新潟県糸魚川市)

いといがわ

- 新潟県糸魚川市来海沢地区で、融雪による地すべりが発生し人家3戸が全壊。
- 地区役員による**呼びかけ**によって迅速に避難を完了し人的被害を免れた。

【災害の経緯】令和3年3月4日未明災害発生

3月3日 PM10:30 異音の確認

3月4日 AM2:00 地区役員参集

AM3:00 避難勧告発令

AM3:00~4:00 役員による避難の呼びかけ

AM4:00 避難完了

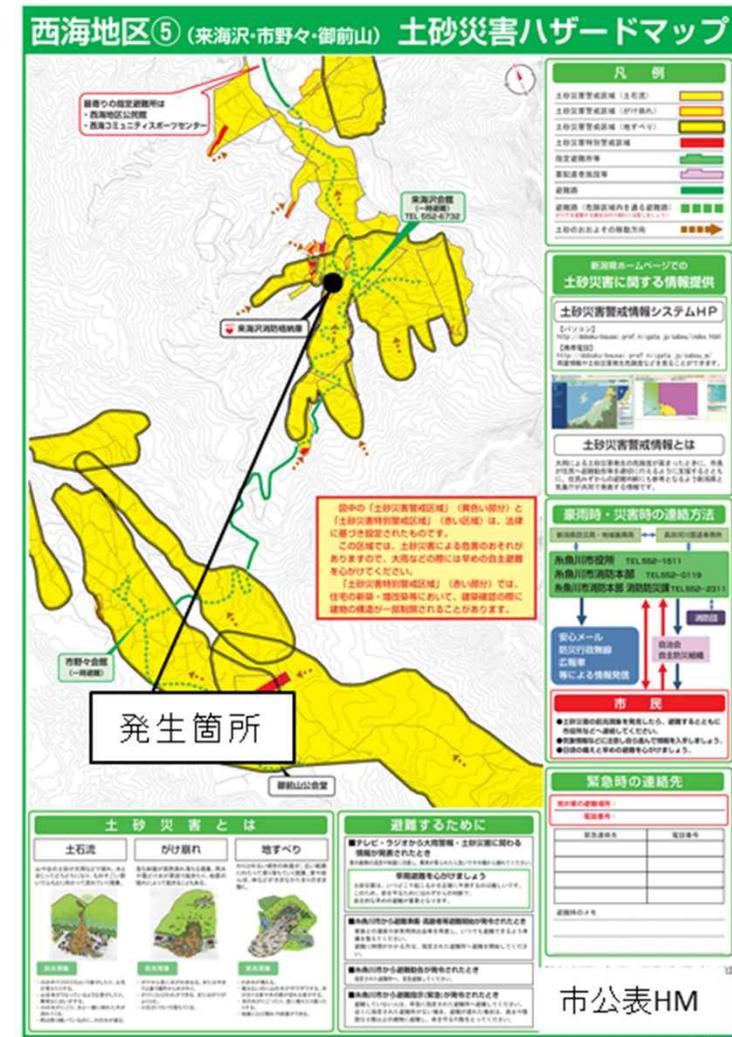
AM4:00 人家に土砂到達(到達前に避難完了)



被害状況写真



市総合防災訓練(R元年度)



- 当該地区は、毎年、市の防災訓練に合わせて、「声を掛けあって避難する訓練」を実施
- 過去の災害の経験から迅速に地区住民全体が避難行動へ移行

「自助」「共助」「公助」連携により難を逃れた事例(長野県飯山市)

いいやま よし

○長野県飯山市吉地区で、小規模な土砂崩落により土砂災害警戒区域内に位置する人家3戸へ土砂が流出。土砂が流出した人家の居住者を含む39名の住民が避難し、人的被害を免れた。

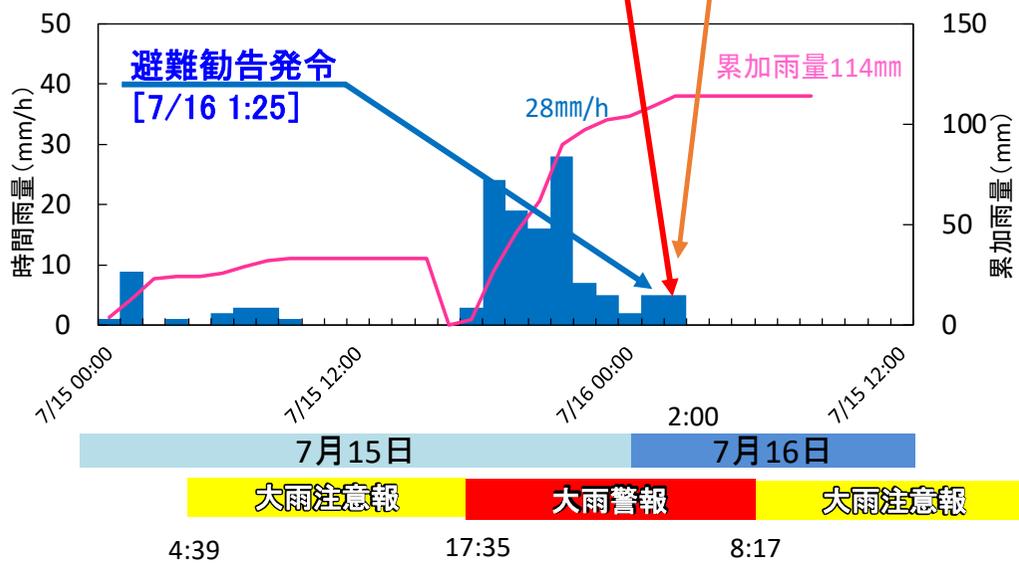
【災害の経緯:令和2年7月豪雨】

- 15日(水) 4:39 大雨注意報発表
- 17:35 大雨警報発表
- 16日(木) 1:25 避難勧告発令 → 地域住民が避難
- 2時頃 土石流出により人家3戸へ土砂が流出
- 8:17 大雨警報解除

避難勧告を受け
安全に避難完了

土砂崩落
[7/16 2時頃]

地域住民が速やかに避難
開始[避難勧告直後]

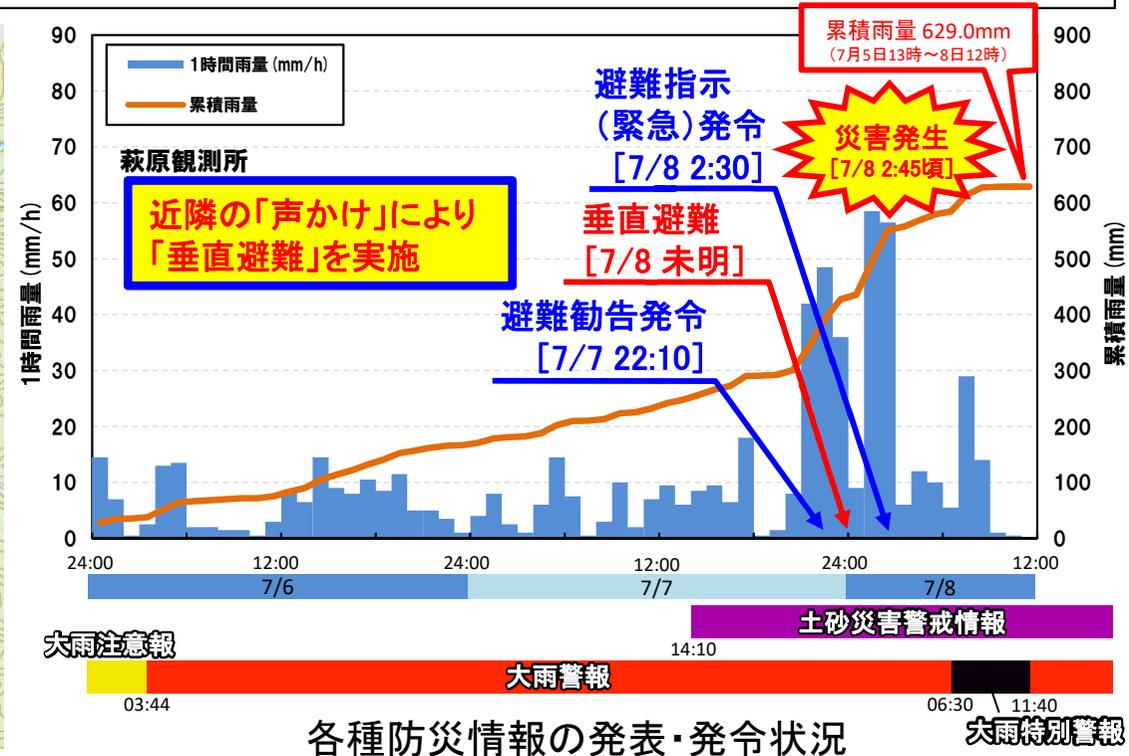
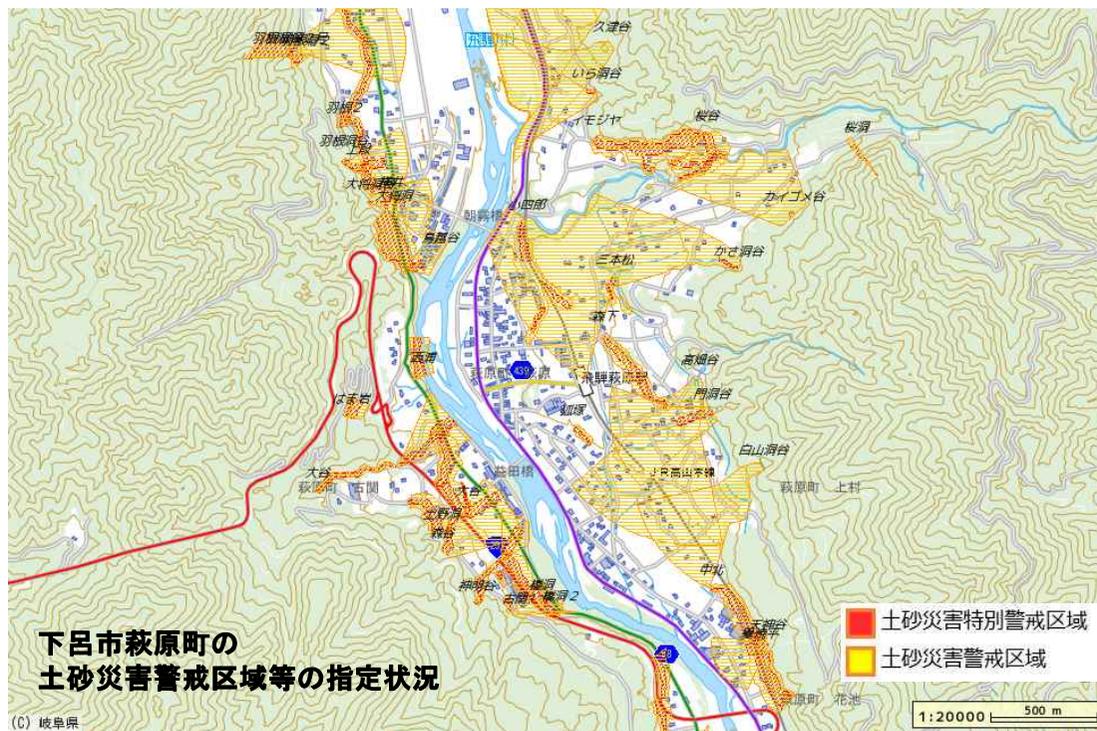


- ◆避難勧告発令の経緯・・・【公助】飯山市は、長野地方気象台から夜間に大雨が降る可能性が高いとの情報を参考に、避難勧告を発令した。
- ◆避難までの経緯・・・【自助】被災した人家に住む住民は、避難勧告発令を契機として避難し、人的被害を免れた。
- ◆地元代表者の声・・・【共助】「日頃から住民同士の声掛けにより、降雨が続き危険を感じる状況になったら早めに避難しようという認識を住民間で共有していたことが、当日の避難行動に繋がった。」

垂直避難により被害を免れた事例 (岐阜県下呂市萩原町)

③

- 令和2年7月豪雨では多くの地域で夜遅くから明け方にかけて強い雨が降り、土砂災害が多数発生。
- これら地域では、急激に状況が悪化したため、区域外の避難場所への立退き避難は困難な状況であったと推測。
- 一方、未明の豪雨となったが、住民の次善の避難行動(垂直避難)等により被害を免れた事例が多数確認され、区域内での退避行動も有効な場合があることが改めて確認された。

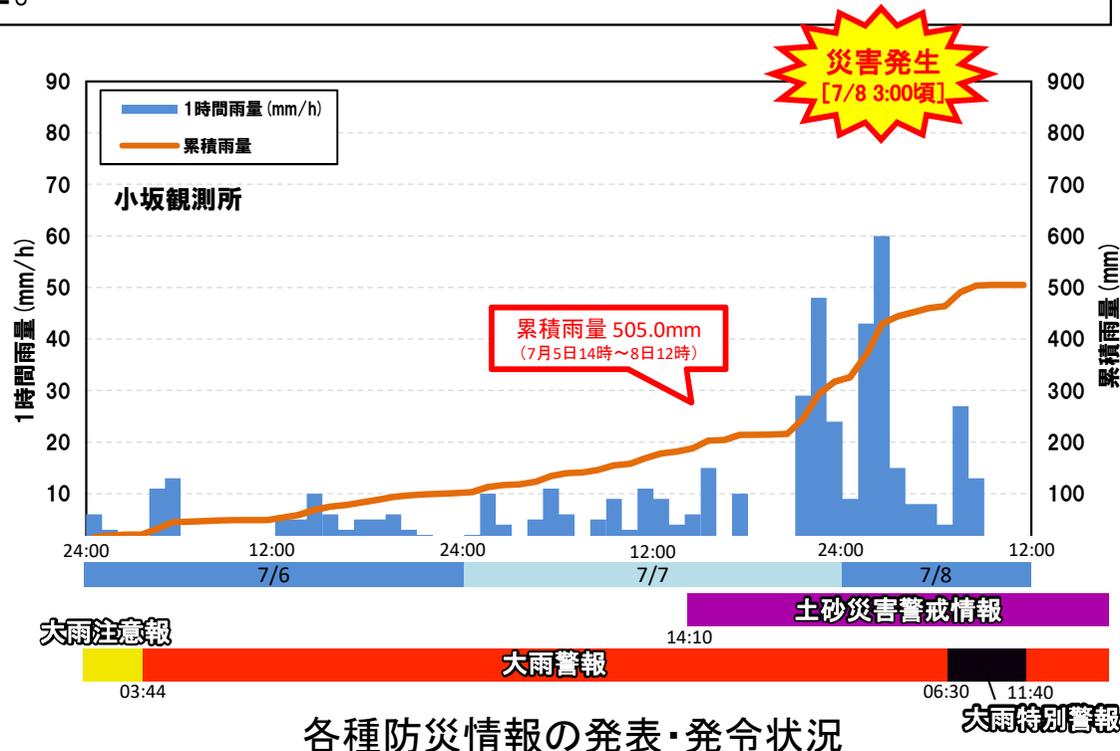


土砂災害により被災した住宅 (下呂市萩原町)

| | | |
|------------------|-------|-----------------|
| 【災害の経緯：令和2年7月豪雨】 | | |
| 6日(月) | 3:44 | 大雨警報発表 |
| | 9:00 | 避難準備・高齢者等避難開始発令 |
| 7日(火) | 14:10 | 土砂災害警戒情報発表 |
| | 22:10 | 避難勧告発令 |
| 8日(水) | 未明 | 声かけにより「垂直避難」 |
| | 2:30 | 避難指示(緊急)発令 |
| | 2:45 | 災害発生(推定) |
| | 2:50 | 被災宅より救助要請 |
| | 6:30 | 大雨特別警報発表 |
| | 11:40 | 大雨特別警報解除 |
| 9日(木) | 13:30 | 土砂災害警戒情報解除 |

地域の防災組織からの避難の声かけにより被害を免れた事例(岐阜県下呂市)

- 100世帯が住む大垣内地区でも下呂署小坂駐在所前のコプトチ谷で土石流が発生。
- 同地区では防災防犯隊を組織し、近所同士で声を掛け合う小グループを編成。今回は雨の状況を見て7日夜に地元公民館への避難をいったん取りやめたが、水路の水があふれるなど災害の予兆を把握すると、8日未明に再び避難を呼び掛け、1人暮らしの高齢者や土砂災害の危険が迫る地域の住民ら約30人を迅速に避難させた。
- 民家が土砂に埋もれる被害があったが、けが人はいなかった。



| | | | |
|--------------------------|-------------------|-------------|--------------|
| 【災害の経緯: 令和2年7月豪雨】 | | | |
| 6日(月) 3:44 | 大雨警報発表 | 8日(水) 未明 | 「声かけ避難開始」 |
| 9:00 | 「避難準備・高齢者等避難開始」発令 | 1:30 | 「災害発生確認」 |
| 7日(火) 14:10 | 土砂災害警戒情報発表 | 2:30 | 「避難指示(緊急)」発令 |
| 17:40 | 「避難勧告」発令 | 6:30 | 大雨特別警報発表 |
| | | 11:40 | 大雨特別警報解除 |
| | | 9日(木) 13:30 | 土砂災害警戒情報解除 |

※1 被災した住宅(土砂災害で被災)

「自助」「共助」「公助」連携により避難できた事例(岐阜県郡上市)

R2年7月事例

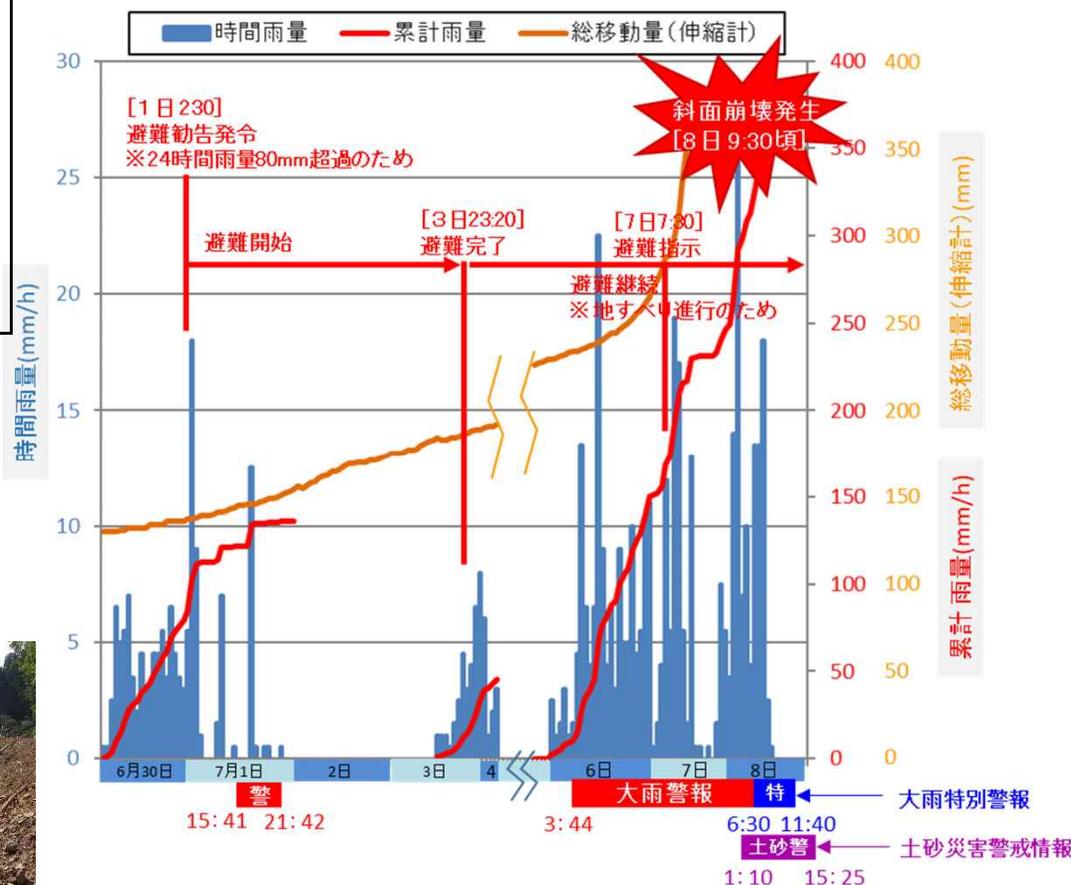
⑤

やまとちょうしま

- 奥田洞谷(岐阜県郡上市大和町島)地区で、過去に土砂災害が発生しており、斜面崩壊による再度の土砂流出の恐れがある箇所において、岐阜県が雨量計や伸縮計を設置。
- その観測値を基に郡上市が避難勧告を発令し、土砂災害警戒区域内に位置する12世帯が斜面崩壊前に避難することができた。

【災害の経緯: 令和2年7月豪雨】

- 1日(水) 2:15 雨量が避難勧告基準値に到達(24時間雨量が80mmを超過)
- 2:30 避難勧告発令
- 3日(金) 23:20 12世帯の避難が完了
- 7日(火) 7:20 伸縮計が異常値を観測
- 7:30 避難指示発令
- 8日(水) 1:10 土砂災害警戒情報発表
- 9:30 斜面崩壊発生



奥田洞谷



- ◆避難勧告発令の経緯・・・【公助】郡上市は、岐阜県が設置した崩壊の恐れがある斜面の24時間監視による雨量や伸縮計の計測値の情報をもとに、崩壊が発生する7日前に避難勧告を発令、前日に避難指示を発令した。
- ◆避難までの経緯・・・【自助】斜面下部の人家の住民は、避難勧告発令を契機として避難し、人的被害を免れた。
- ◆地元代表者の声・・・【共助】「市から地元代表者への避難勧告を関係住民に伝達し、避難勧告発令となる雨量や伸縮計の計測値の基準になったら事前に避難しようという認識を住民間で共有していたことが、当日の避難行動に繋がった。

住民との事前の取組により早めの避難が実施できた事例(滋賀県長浜市)

R2年7月事例
⑥

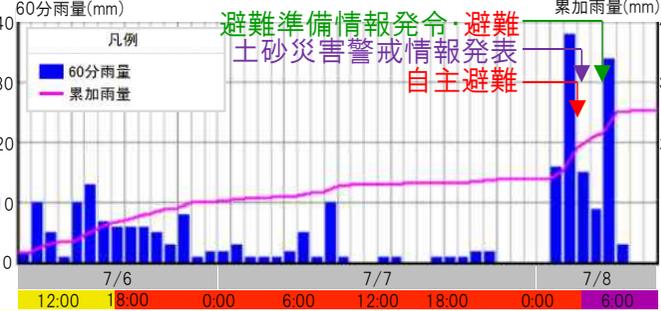
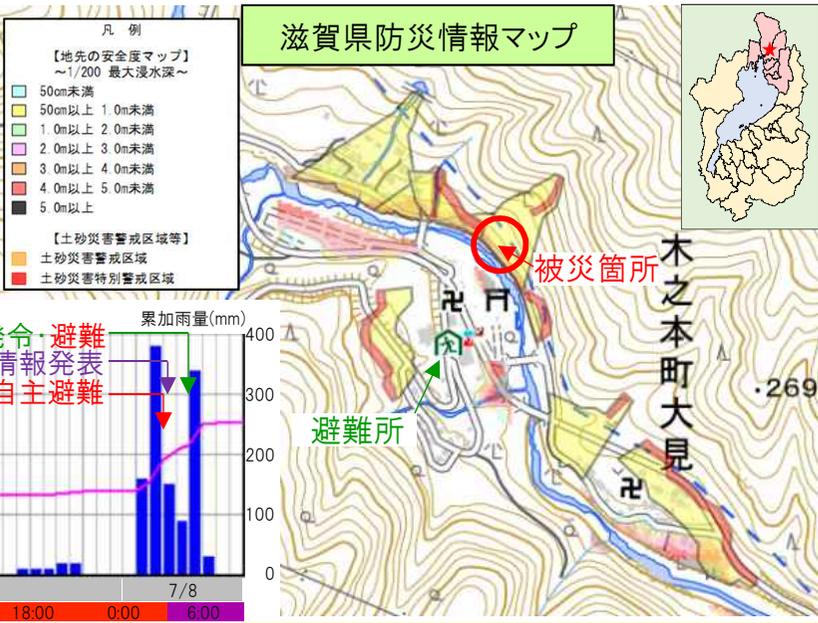
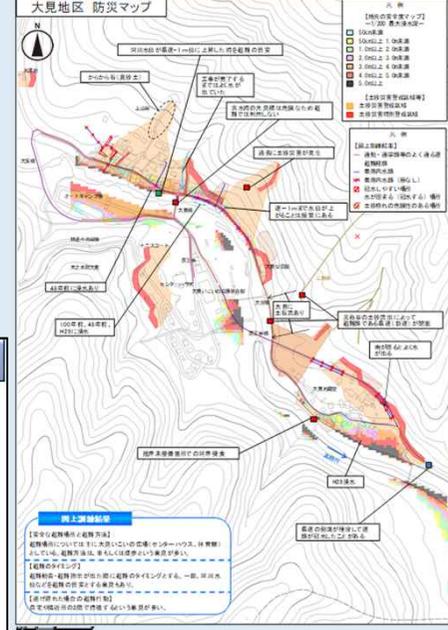
きのもとちょう おおみ

- 滋賀県長浜市木之本町大見地区は、土砂災害警戒区域内に位置している。
- 土石流により、避難路に隣接する倉庫1棟が被災。
- 地区内住民自らが降雨状況を確認し、事前に自主的に避難所を開設することで早めの避難が実施できた。

【災害の経緯:令和2年7月豪雨】(赤字:住民の行動)

- 6日(月) 04:05 大雨注意報発表
- 16:17 大雨警報発表
- 8日(水) 03:00 **自主的に避難所を開設**
- 03:10 土砂災害警戒情報発表
- 04:00 **避難放送**→住民4人自主避難
- 04:30 長浜市災害警戒本部設置
- 06:00 避難準備情報発令→**再度避難放送**→住民10人避難
- 6時過ぎ土石流が発生し車庫・倉庫が一部損壊
- 09:20 土砂災害警戒情報解除

大見地区でのこれまでの取組



過年度より当地区において、「水害・土砂災害に強い地域づくり」に関する取組を行ってきた結果、住民自らが危機意識を持ち、行政からの情報を待たずに自ら命を守る行動に出ることができた。

降雨のピークを予測し早期の発令により避難を促進した事例(山口県和木町)

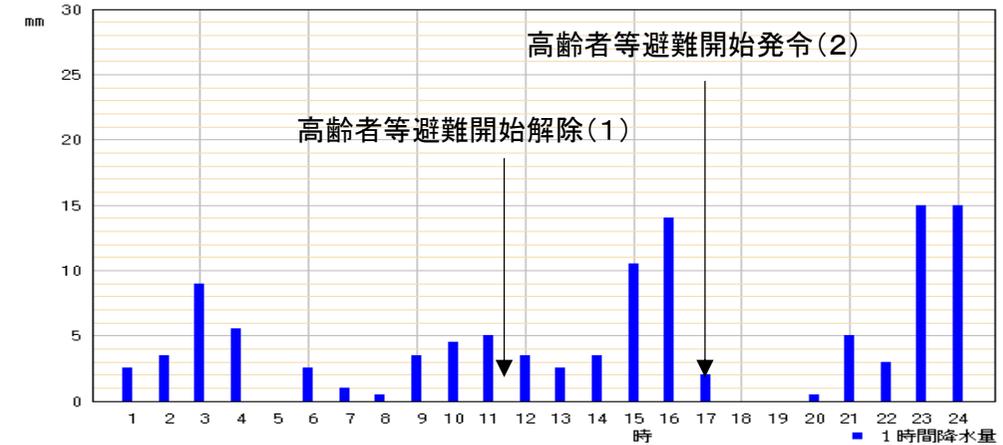
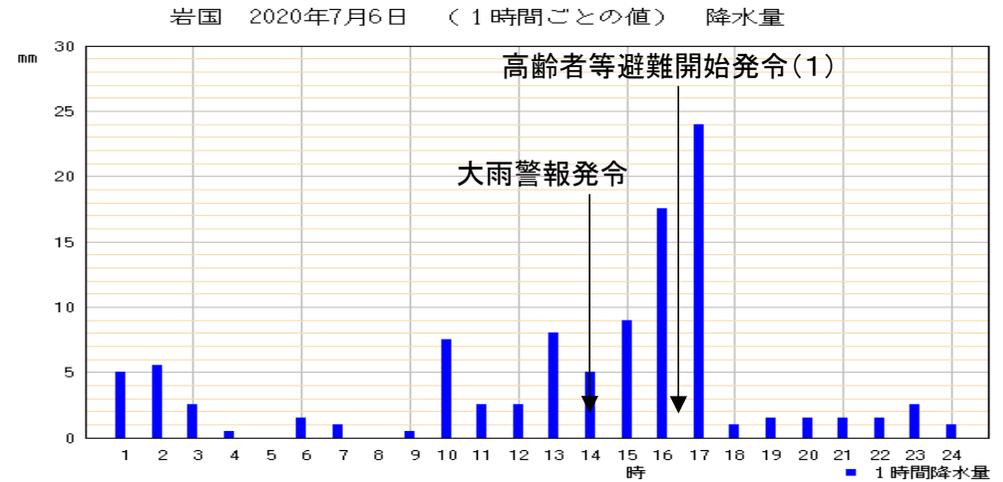
R2年7月事例

⑦ New

- 「土砂災害警戒情報」発表の可能性は少ないが、深夜の高齢者等の避難は困難なことから、「高齢者等避難開始」を夕方前の明るい時期に発令(最大7世帯9名避難、被害なし。)
- 翌日昼前に、降雨量の低下に伴い一旦、「高齢者等避難開始」を解除したが、今後の予想雨量のピークが深夜となり、累積雨量も考慮し、2回目となる「高齢者等避難開始」を夕方前の明るい時期に発令(最大5世帯7名、被害なし。)

【対応の経過】令和2年7月6～8日

- 6日14:03 大雨警報(土砂災害)発表
- 16:03 「高齢者等避難開始」発令
- 20:00 7世帯9名避難(最大)
- 7日11:30 「高齢者等避難開始」解除
- 17:00 「高齢者等避難開始」発令
- 22:27 5世帯7名避難(最大)
- 8日05:47 大雨警報(土砂災害)から注意報



土砂災害の兆候把握による事前の避難により難を逃れた事例(徳島県上勝町)

R2年7月事例

⑧

ふくはら

○徳島県上勝町福原地区で、がけ崩れが発生して家屋1戸が全壊した。
住民は土砂災害の兆候(異音)に気付き、親類に促され戸外へ避難し、人的被害はなかった。

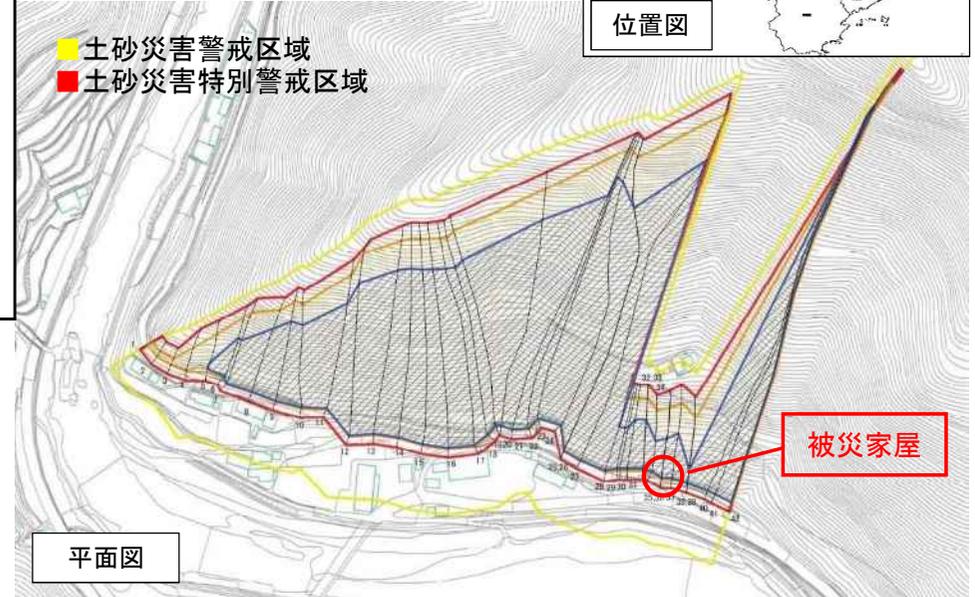


位置図

【災害の経緯】: 令和2年7月豪雨

14日(火) 17:00過ぎ 住民が土砂災害の前兆現象(異音)に気付き、
親類に連絡したところ、避難を促され戸外へ避難
17:30頃 がけ崩れが発生

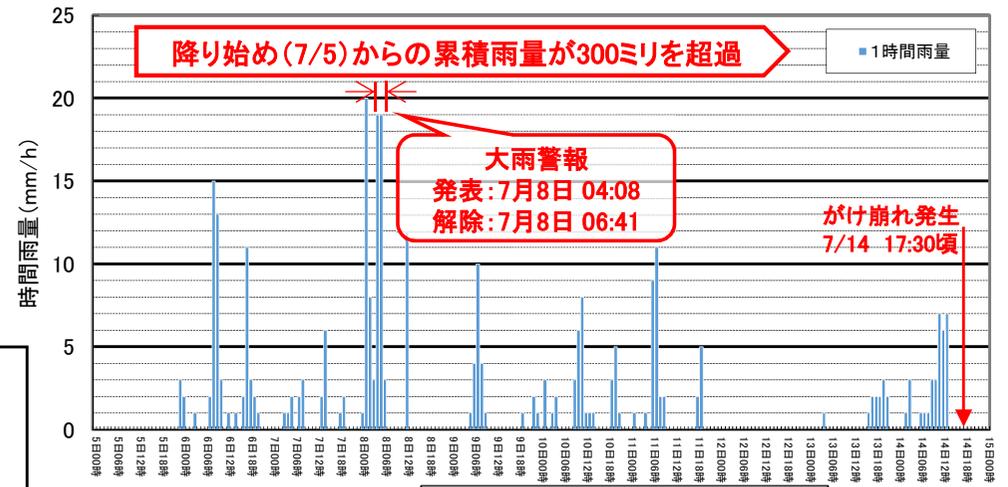
※当時、土砂災害警戒情報の発表はなく、降雨も小康状態であった。
被災した地区では、7月5日より断続的に降雨が続いており、
降り始めからの累積雨量は300ミリを超過していた。



平面図



倒壊した人家



時間雨量図(降り始め~被災時)

★当該事例のポイント

住民と近所に住む親類は、当該箇所における土砂災害発生の可能性を認識していた。兆候(異音)に対して敏感に反応し、更に避難に結び付けることができたことで、人的被害を免れる結果に繋がった。

「自助」「共助」「公助」連携により難を逃れた事例(佐賀県鹿島市)

かしまし

のごみ しらとりお

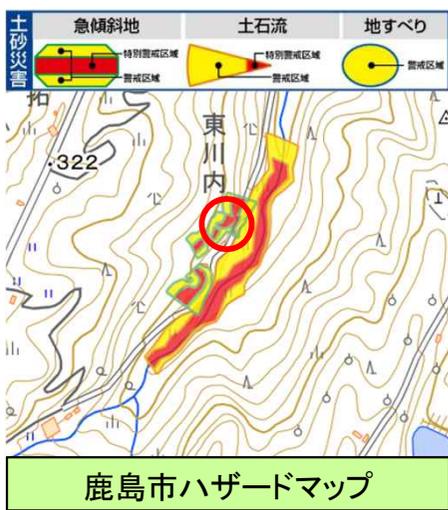
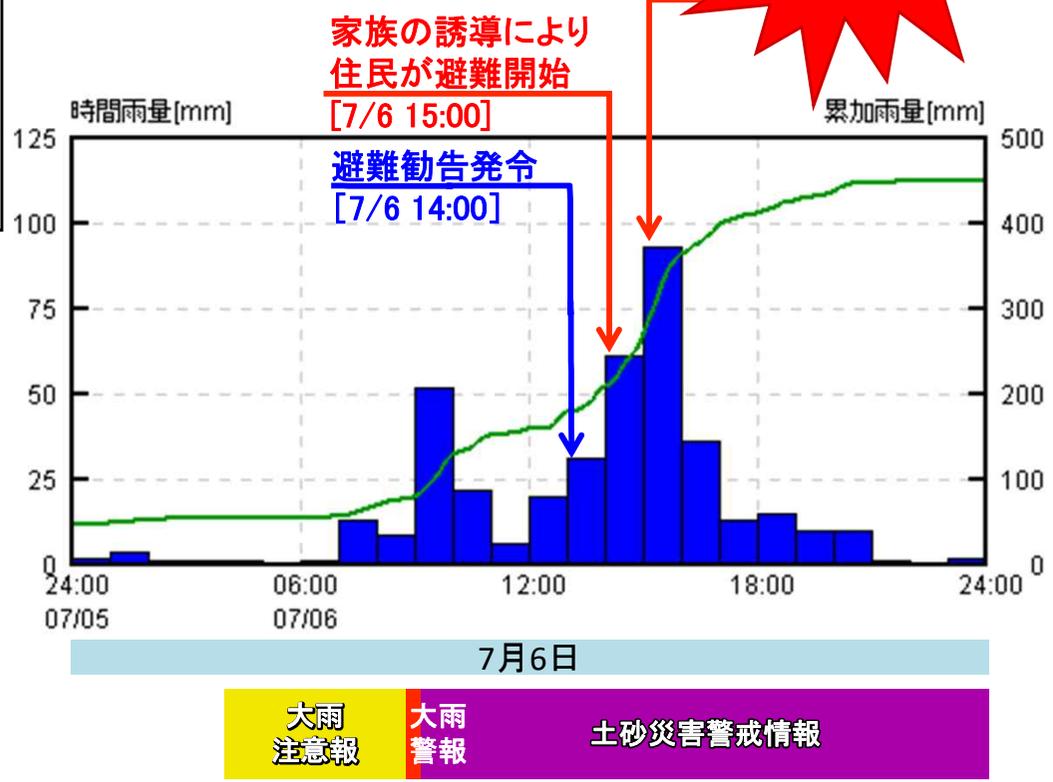
○佐賀県鹿島市能古見地区白鳥尾で、土砂災害警戒区域内に位置する住家1戸が裏山の土砂崩落により全壊。全壊した住家の居住者2名は避難勧告を受け、事前に避難しており、人的被害を免れた。

【災害の経緯: 令和2年7月豪雨】

- 6日(月)10:06 大雨警報発表 → 災害対策連絡室設置
- 10:10 土砂災害警戒情報発表 → 災害対策本部へ移行
- 10:50 避難準備・高齢者等避難開始情報発令
- 14:00 避難勧告発令
- 15:00頃 当該住民が避難
- 16:00過 がけ崩れが発生し住家1棟が全壊
- 16:30 大雨特別警報発表

避難勧告を知った家族の誘導で
がけ崩れ発生前に避難完了

がけ崩れ発生
[7/6 16:00頃]



- ◆避難勧告発令の経緯・・・【公助】鹿島市は、気象台の土砂災害危険度分布(メッシュ)情報と降水短時間予報とを参考に、地域ごとにレベル3(避難準備・高齢者等避難開始)、レベル4(避難勧告)の避難情報を発令した。
- ◆地元での取り組み・・・【共助】地域では従前より災害についての話し合いをしており、避難に対する意識が高かった。
- ◆避難までの経緯・・・【自助】全壊した家の住民の子達が、今春配布されたハザードマップで事前に実家の危険度を確認しており、能古見地区に出た避難勧告をTVで見た隣町に住む娘が、当該住民を迎えに行き避難させ、人的被害を免れることができた。

自主防災組織の呼びかけを契機に避難を実施して命を守った事例(熊本県小国町)

○熊本県阿蘇郡小国町杖立温泉で、杖立温泉観光協会及び旅館5軒が土砂流入により甚大な被害が発生。
 ○協会事務局で警戒のため待機していた協会職員をはじめとして、旅館の関係者も、自主防災組織の呼びかけを契機に事前に避難しており人的被害を免れた。

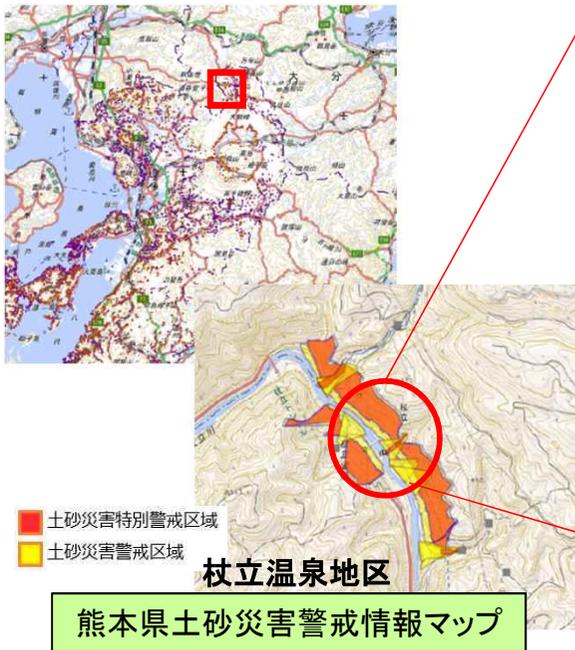
【災害の経緯: 令和2年7月豪雨】

- 6日(月) 15:25 大雨警報発表
- 16:40 土砂災害警戒情報発表
- 18:30 避難勧告発令
- 18:30 **自主防災組織による避難の呼びかけ開始**
- 23時頃 立ち退き避難
- 7日(火) 未明 土砂災害発生

小国観測所 雨量状況

| | | |
|----------|-------|------------------------|
| 連続雨量 | 610mm | (7月 5日 18:00~ 8日 8:00) |
| 最大24時間雨量 | 370mm | (7月 7日 0:00~ 7日 24:00) |
| 最大時間雨量 | 63mm | (7月 7日 4:00~ 7日 5:00) |

【7月5日12:00から7月8日14:00までの時間雨量】



○杖立温泉地区は、過去には1982年、93年に災害に見舞われ、93年には土砂災害で2名が亡くなった。
 ○杖立温泉観光協会には警戒のため協会職員が待機していたが、自主防災組織の呼びかけを契機に事前に避難し助かった。
 ○被災した旅館の関係者も自主防災組織の呼びかけを契機に事前に避難し人的被害を逃れた。
 ○この地区では自主防災組織があり、防災意識が高く当日の避難行動に繋がった。

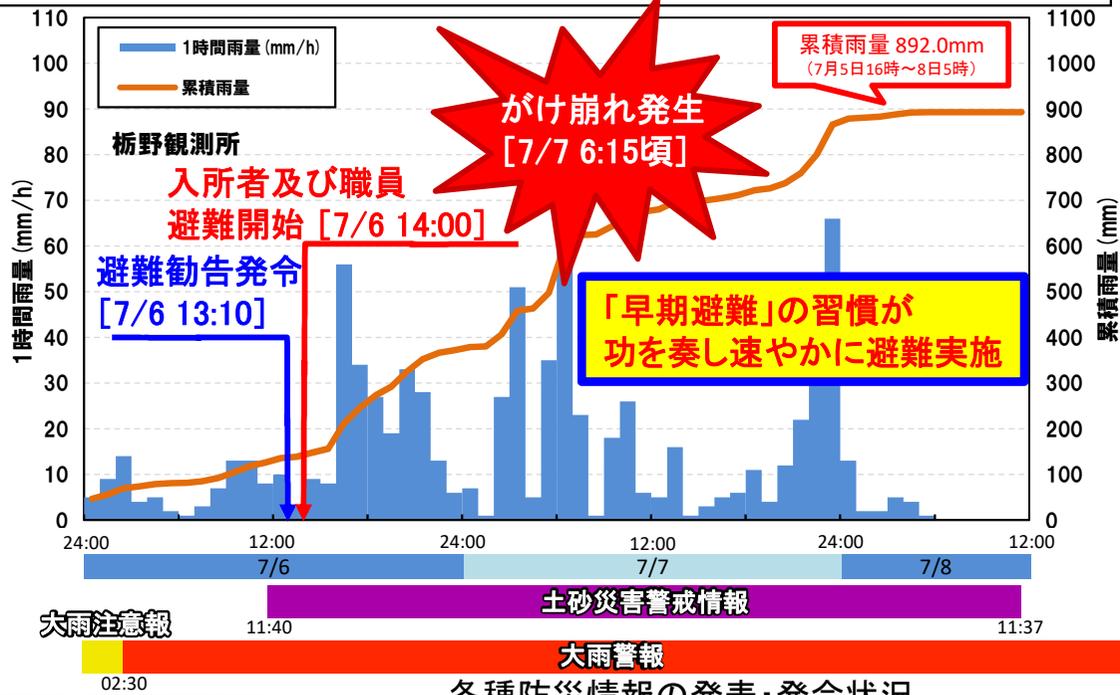
⑪ 要配慮者利用施設が事前の備えにより難を逃れた事例(大分県日田市)

なかつえ — とちの

あんじゅえん

- 大分県日田市中津江村栃野地区に位置する高齢者福祉施設「安寿苑」(土砂災害警戒区域内に位置)でがけ崩れが発生。施設に被害が生じたものの、前日に入所者らが避難したため人的被害はなかった。
- 同施設では約10年前に避難計画を策定。近年多発する豪雨に対応するため、「警戒レベル3で避難する」ことを盛り込むなど早期避難を習慣にしており、今回も速やかに避難したことで難を逃れた。

土砂災害警戒区域等の指定状況



施設周辺の土砂災害の発生状況

各種防災情報の発表・発令状況

- 【災害の経緯: 令和2年7月豪雨】
- 6日(月) 2:30 大雨警報発表
 - 11:40 土砂災害警戒情報発表
 - 13:10 避難勧告発令
 - 14:00 避難開始
(入所者3名、職員5名が中津江振興局へ避難)
 - 16:30 避難指示(緊急)発令
 - 7日(火) 6:15頃 施設周辺で土砂災害発生
 - 8日(水) 11:37 土砂災害警戒情報解除

「自助」「共助」「公助」連携により難を逃れた事例(鹿児島県垂水市)

R2年7月事例

⑫

— しんみどう しんこうじ —

○鹿児島県垂水市新御堂新光寺地区で、土石流により土砂災害警戒区域内に位置する人家2戸及び倉庫1棟が全壊。全壊した人家の居住者を含む2名の住民が事前に避難しており、人的被害を免れた。

【災害の経緯:令和2年7月豪雨】

- 5日(日) 7:35 大雨警報発表
- 10:30 垂水市災害警戒本部設置
- 16:00 避難勧告発令 → 地域住民が避難
- 6日(月) 3:10 土砂災害警戒情報発表
- 7時頃 土石流が発生し人家2戸及び倉庫1棟が全壊
- 15:55 土砂災害警戒情報解除

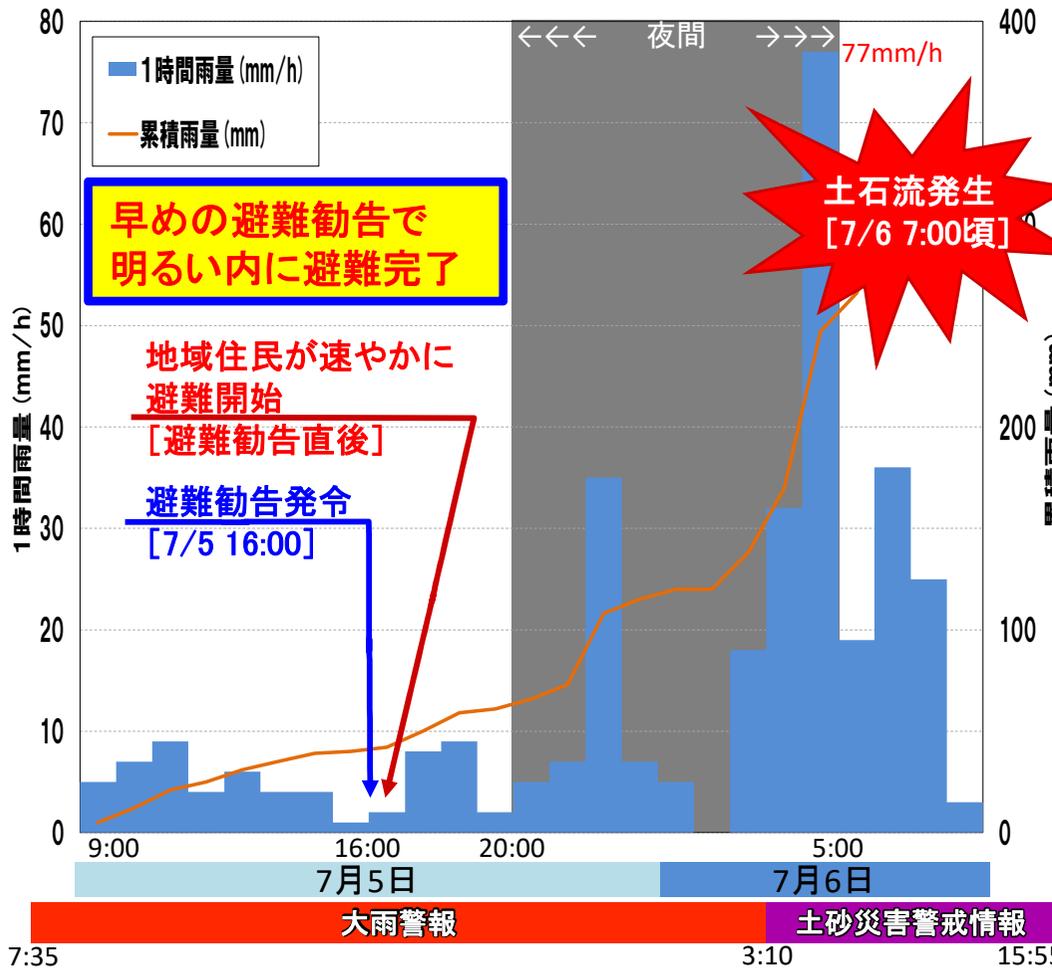
① 人家全壊



② 人家・倉庫全壊



鹿児島県土砂災害警戒区域等マップ



- ◆避難勧告発令の経緯・・・【公助】垂水市は、鹿児島地方気象台から夜間に大雨が降る可能性が高いとの情報を参考に、夜を迎える前、土砂災害警戒情報の発表を待たずに避難勧告を発令した。
- ◆避難までの経緯・・・【自助】全壊した人家に住む男性は、避難勧告発令を契機として避難し、人的被害を免れた。
- ◆地元代表者の声・・・【共助】「日頃から住民同士の声掛けにより、降雨が続いたら出水が起こり得る地域であり、降雨が続く危険を感じる状況になったら早めに避難しようという認識を住民間で共有していたことが、当日の避難行動に繋がった。」

日頃の準備により難を逃れた事例(宮城県丸森町五福谷地区)

- 午後3時20分、町内全域に**避難勧告が発令**された。
- 五福谷地区の民生委員**は、異常な大雨に危険を感じ、避難準備を始め、**近隣の住民にも避難を呼びかけた**。
- 午後7時過ぎ、十数人が**高台の家へ避難し難を逃れた**。
- 同地区は、**過去の豪雨で氾濫寸前**であったことから、全戸の**緊急連絡網をまとめ、活用するルールを定めるとともに、日頃から防災組織の会合等**で住民が集まるたびに**避難場所を確認**していた。



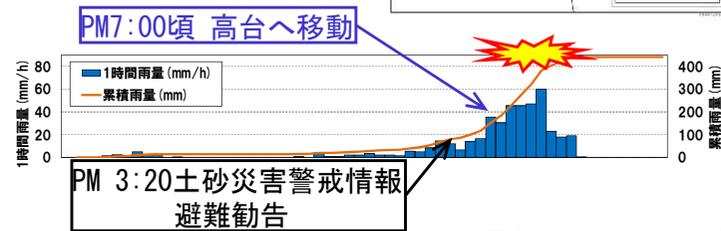
【災害の経緯】令和元年10月12日

PM 3:20 土砂災害警戒情報発表

PM 3:20 避難勧告発令

PM 7:00頃 地区内の住民は、民生委員の呼びかけにより地区の集会所へ避難
→さらに周囲の水位が上昇したため、高台の家へ避難

地区一帯に土砂・流木が氾濫したが既に避難していたため、人的被害なし



丸森町の被災状況(主に五福谷川周辺)



丸森町五福谷地区の被災状況

民政委員の声

「**普段から連絡網を使っていたおかげ**で、今回も活用できた」

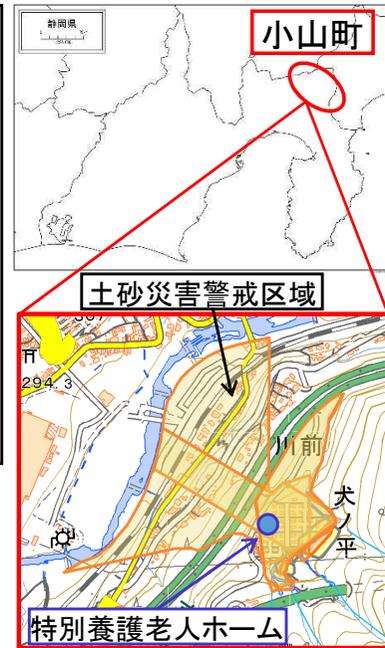
(出典:河北新報報道より)

事前の準備により難を逃れた事例(静岡県小山町)

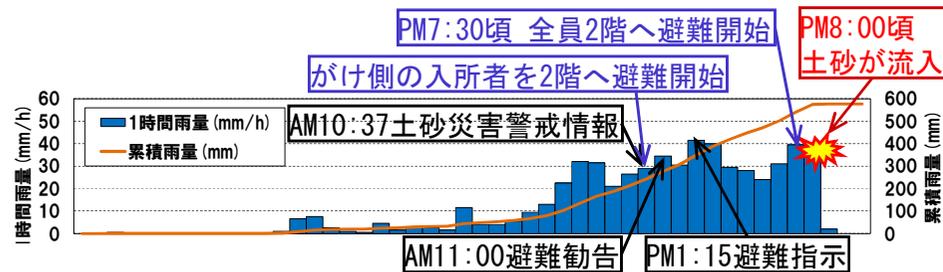
R元年10月事例

14

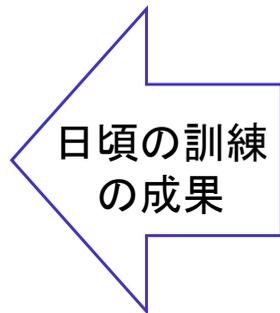
- 午前10時半頃の土砂災害警戒情報の発表後、**特別養護老人ホーム入所者を避難確保計画*に従い、がけ側から2階へ移動**。さらに降雨が続き、近隣住民の声かけにより、**入所者全員を2階へ移動させた**。
- その後、近くの山から発生した**土石流**が、**施設の1階部分に流入**したが、利用者及び職員**全員難を逃れた**。
- 同施設は、**土砂災害警戒区域内**に存しており、**日頃から近隣住民の方とともに避難訓練*を実施**していた。



- 【災害の経緯】令和元年10月12日
- AM10:37 土砂災害警戒情報発表
がけ側の入所者を2階へ移動
 - AM11:00 避難勧告発令
 - PM 1:15 避難指示発令
 - PM 7:30頃 近隣住民からの声かけ
入所者及び職員全員2階へ避難
 - PM 8:00頃 施設1階に大量に土砂が流入



施設1階に土砂が大量に流入したが、全員無事



写真提供: 小山町



令和元年6月同施設での避難訓練実施状況

写真提供: 小山町

施設の声
「これまで継続してきた防災活動が職員に蓄積されている(防災意識の高い職員が多い。)」

*土砂災害防止法により、土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設の管理者等は、避難確保計画の作成・避難訓練の実施が義務づけられている

2階への垂直避難により難を逃れた事例(岡山県新見市)

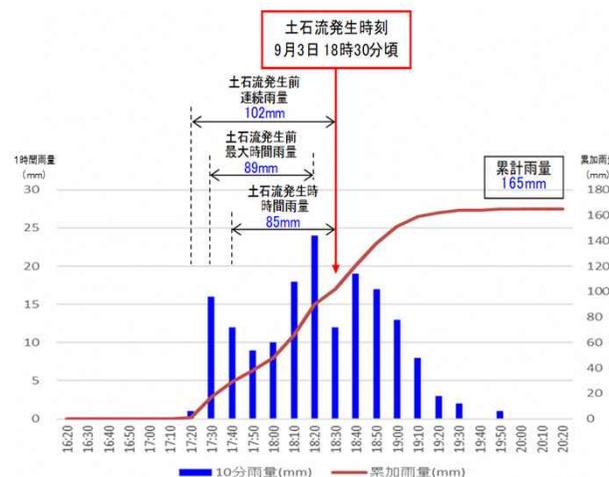
にいみ

- 新見市西方地区で土石流が発生し、**家屋全壊の被害が生じたが、建物2階への垂直避難により、人的被害を免れた。**
- 土砂災害防止月間や出前講座、特別警戒区域指定前説明会等により、土砂災害の危険性や知識、日頃の備えなどについての啓発活動を実施しており、さらに平成30年7月豪雨災害を受けて、住民の災害への意識が高まっていた。**



【災害の経緯】令和元年9月3日

- PM 6:00頃 **自宅2階へ垂直避難**
- PM 6:30頃 **自宅に土砂が流入(土石流発生)**
- PM 6:50 記録的短時間大雨情報(100mm)
- PM 7:10 記録的短時間大雨情報(120mm)



**建物2階への
垂直避難
により人的被害
を免れた**

親族宅への避難により難を逃れた事例(京都府綾部市^{あやべし})

○京都府綾部市旭町で、土砂崩れが発生し、家屋が全壊したが、事前避難により人的被害を免れた。

【避難の内容】

・住民の女性は、娘の呼びかけにより、娘宅へ避難し、被災を免れた。

【災害の経緯】

平成30年7月5日 PM19:30 土砂災害警戒情報発表
 (避難準備・高齢者等避難開始、一部地域に避難勧告発令)
 平成30年7月7日 AM12:35 大雨特別警報発表
 平成30年7月7日 AM12:35 避難勧告発令
 平成30年7月7日 AM 1:45 避難指示(緊急)発令
 平成30年7月7日 **AM 3:30頃 自宅に土砂が流入**



⑰ New 山から離れた部屋への移動により難を逃れた事例(山口県岩国市由宇町由西地区)

○平成30年7月豪雨の大雨により、裏山が崩れることを心配して、普段寝室として使用していた北側(山側)の部屋ではなく、反対の南側の部屋で就寝していたところ、明け方頃に土砂が流入する音で目が覚めた。北側の部屋を確認した結果、土砂が室内に流入しており、普段どおり就寝していたら危険な状況であった。

○難を逃れた理由等

今まで経験したことがないような雨の降り方に危険を感じたため



【災害の経緯】

平成30年7月6日

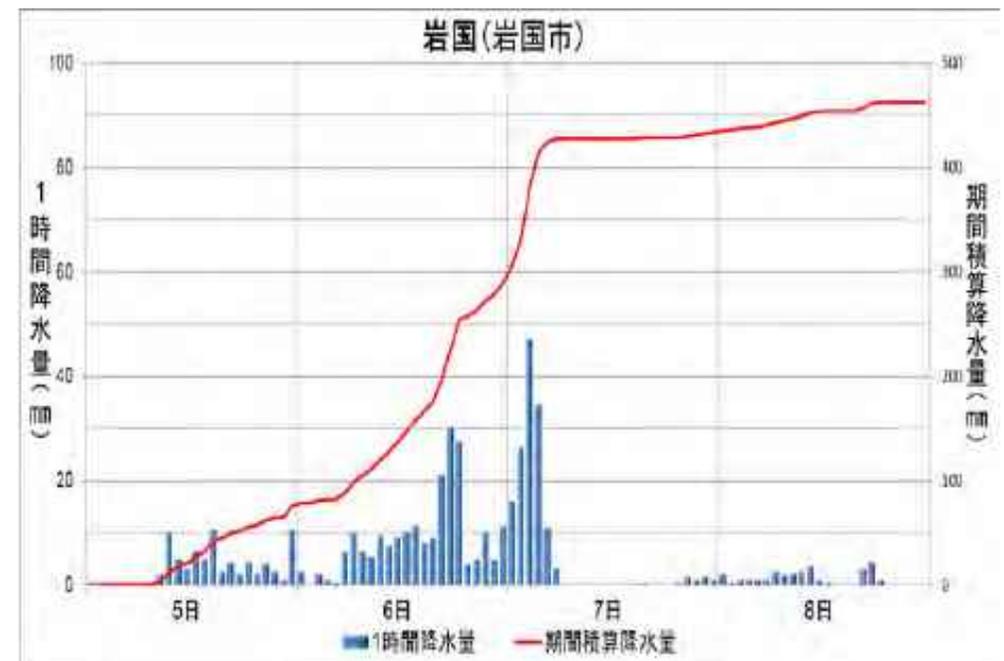
14:20 土砂災害警戒情報発表

翌7月7日

04:10 避難勧告発令

明け方頃 自宅に土砂が流入

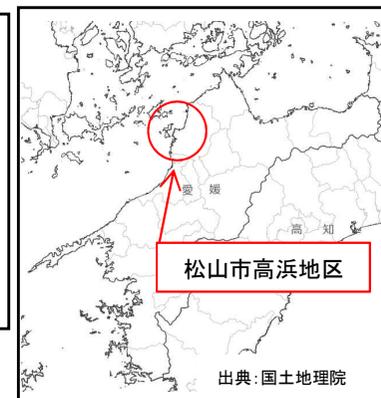
・由宇町第3分団地区自主防災会長は、地区内での防災研修等の際に、この事例を地域住民に伝え、外への避難が危険と感ずる場合でも、家の中の山と反対側の部屋に避難しておくなど、命を守る最低限の行動をとることが災害から身を守るために重要であるということを訴えている。



避難行動や呼びかけにより命を守った事例(愛媛県松山市)

○松山市全域に6時20分に土砂災害警戒情報が発表され、高浜地区では21時00分から順次、避難勧告が発令された。

○地区内では、土石流、がけ崩れ等の土砂災害が35箇所発生し、**人家約11戸が全半壊の被害**となったが、**避難の際にけがをした1人を除いて全員無事**であった。



【災害の経緯】

7月6日 06:20

土砂災害警戒情報発表(松山市全域)

7月6日 午後

高浜地区の自主防災組織などが見回り開始

(小さな土砂崩れ等確認)

一軒一軒避難の呼びかけ

7月6日 21:00から順次 避難勧告発令

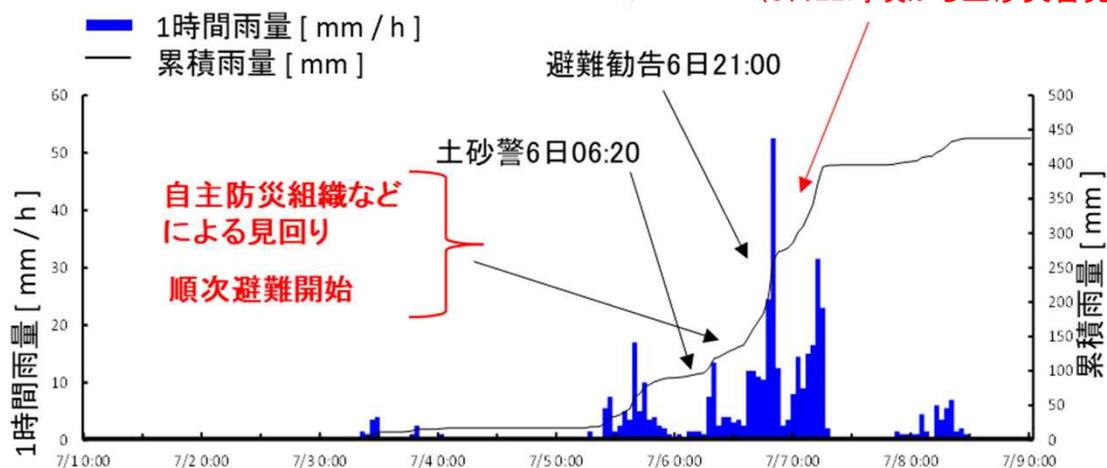
22時頃から翌朝にかけて地区内35か所で土石流やがけ崩れが発生

被災状況(松山市高浜地区)



小型無人機で撮影した高浜地区の土砂崩れ現場 (高浜地区自主防災連合会提供)

太山寺雨量観測所のデータ(7/2~7/9)



事前の避難や呼び掛けにより難を逃れた事例(高知県大月町橋浦)

H30年7月事例

19

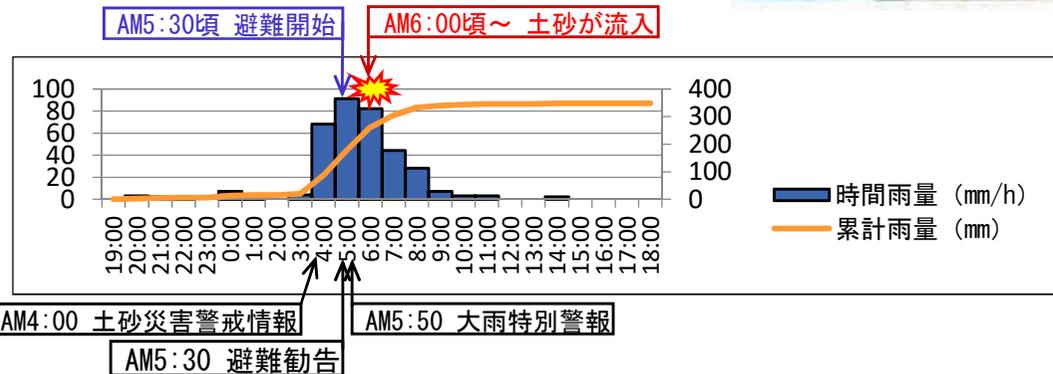
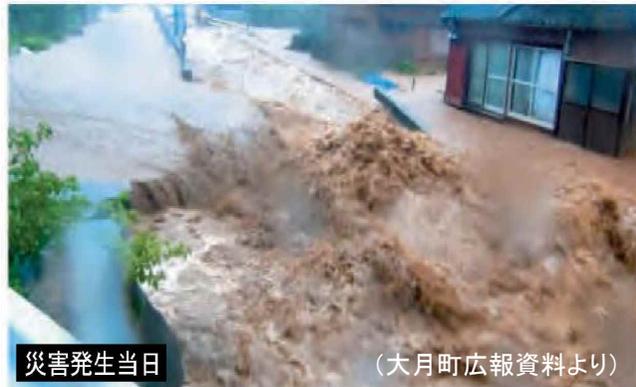


- 大月町内全域に、4時00分に土砂災害警戒情報が発表された。
- その後、5時30分に大月町内全域に避難勧告が発令された。
- 橋浦地区では、区長ら役員が住民の安否を電話で確認し、避難場所(区役場)に避難するよう呼び掛けた。
- 既に道路が冠水するなどして避難することが困難な場合は、自宅の2階など高い場所に避難するよう呼び掛けることで、難を逃れた。

【災害の経緯】平成30年7月8日

- AM4:00 土砂災害警戒情報発表
- AM5:30 避難勧告発令
- AM5:30 避難所へ避難、
自宅内で垂直避難
- AM5:50 大雨特別警報発令
(県西部6市町村)

H30. 7. 7~7. 8雨量状況 (弘見観測所)



■2階へ避難
大月町は8日午前4時55分に災対本部を設置。5時半に全域に避難勧告を出したが、宿毛市同様、道路冠水などが始まっていた。約150人が暮らす橋浦地区は町役場から車で約20分の海岸沿い。5時には膝まで道路が冠水し、27棟が床上、床下浸水した。山本梅市区長(75)ら役員は区役場から住民の安否を電話で確認し、区役場に避難するよう呼び掛けた。避難してきたのは5人で山本区長は「『家周辺が危険なら2階など高い場所に逃げて』と説明した。町役場からも遠いので、それぞれ判断してくれたらと思う」と話す。(高知新聞 平成30年8月14日(火)掲載)

②0 New 山から離れた部屋に移りにより難を逃れた事例(秋田県仙北市)

せんぼく

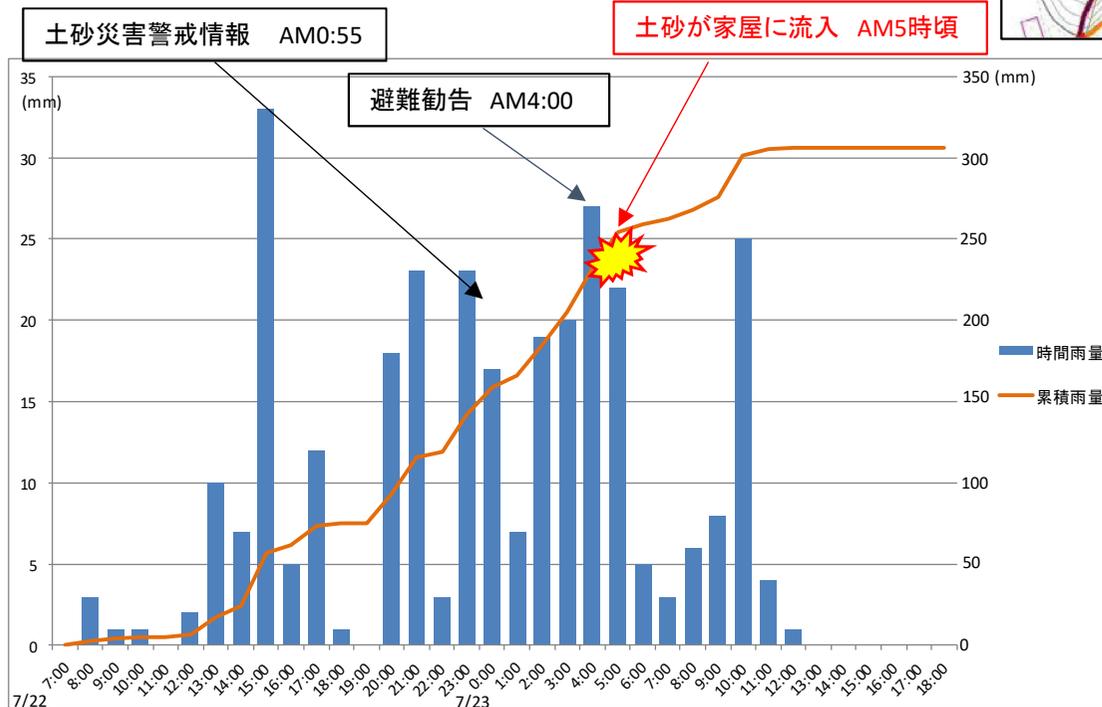
- 平成29年7月23日午前4時、土砂災害発生のおそれがある区域に避難勧告発令
- 市内西木町に住む家族は、避難所までの移動は夜間であり危険と判断し、家の中で滞在することとし、可能な限り**山から離れた部屋に移動**
- 平成29年7月23日午前5時頃、土砂が家屋に流入したが、滞在していた**部屋には土砂が移動しなかったため、難を逃れた。**

【災害の経緯】令和元年7月23日

AM0:55 土砂災害警戒情報発表

AM4:00 避難勧告発令

AM5時頃 自宅に土砂が流入



事前の避難により難を逃れた事例(富山県魚津市)

うおづし

- 魚津市では、午後10時30分に土砂災害警戒情報が発表され、県から市防災部局や消防部局にはFAX及びメールにて情報伝達された。
- これを受け、市から速やかに地域の自主防災組織のリーダーや区長へ連絡を行った。(夜間の避難による2次災害を懸念し、避難勧告は発令せず)
- その後、住民が前兆現象(木が折れるような音等)に気づき、災害発生前に公民館に自主避難を行った。(区長の呼びかけが前兆現象の早期発見や自主避難に繋がった)



【災害の経緯】平成26年7月19日

PM 10:30 土砂災害警戒情報発表
市から区長等へ連絡

PM 11:00頃 住民が前兆現象を確認し、土砂災害警戒区域外の公民館へ
自主避難(15世帯40人)

AM 0:00頃 土石流が発生し神社が倒壊

倒壊した東山神社

【現地の方の声】

- ・山からバリバリと木が折れる音が聞こえた。
- ・たい肥のもっと腐った臭いが強くなり、身の危険を感じた。
- ・土砂が崩れて、家が埋まってしまうんじゃないかとすごく怖かった。
- ・このまま家にいたらダメと思い逃げなくてはと思った。

